

体育科学習指導案

令和4年5月30日（月） 第3校時 第1学年1組（体育館） 指導者 北浦 佑基
和田江理那

【単 元】 ボールころころゲーム（E ゲーム）

考察	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
育成を目指す資質能力	ボールころころゲームの行い方についての知識や、的や味方をねらってボールを転がしたり、ボールを操作できる位置に動いてボールを捕ったりする技能	ボールころころゲームにおける運動の課題の解決策を見付ける力、簡単な規則を工夫する力、攻め方を選ぶ力、考えたことを伝える力	ボールころころゲームに進んで取り組むとともに、誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたりする態度
子どもの実態	- ボールを投げたり、転がしたりする運動的な遊びを経験してきている。 - ボールを投げ合ったり、鬼ごっこをしたりするなど、攻めや守りの動きによって、易しいゲームをすることができ	- 遊具遊びでそれぞれの固定施設を使って、いろいろな姿勢をとったり、登り降りをしたりするなど、楽しく遊べる遊び方を選ぶ。 - 体ほぐしの運動で、友達の動きのよいところを見付けたり、遊具遊びの遊び方を友達に伝えたりすることができる。	- 順番やきまりを守り、進んで運動的な遊びに取り組むことができる。 - 休み時間の勝敗がつく外遊びで、勝敗を素直に受け入れることが難しい子どもがいる。
価値	・ボールころころゲームは、ねらったところにボールを転がせたことや転がってくるボールを捕れたことに喜びを感じることができる。さらに、フェイントや素早く体を切り返すことによって守りをかわしてボールを操作できる位置に移動し、的や味方をねらってボールを転がして得点することに面白さや楽しさがある。単元の前半は、2対1のアウトナンバーの状態、的をねらってボールを転がすゲームを行う。そのため、ボール保持者と守りの関係についての状況判断や守りをかわすことが容易になり、誰もが的をねらってボールを転がして得点することができる。単元の後半は、2対1のアウトナンバーの状態、味方をねらってボールを転がすゲームを行う。そのため、味方と守りの関係に着目しながら、ボールが転がってくるコースに入るというボールを持たない動きを経験することができる。これらのことから、守りをかわして、ゴールをねらうことやボール保持者と自分の間に守りを入れないようにすることといったゴール型ゲームの特性に着目しながら、ボールころころゲームの楽しさや喜びを味わうことができる。 ・技能的に易しい「ボールを転がす」という動きやボール保持を邪魔されないというルールにより、的や味方をねらってボールを転がす技能を身に付けることができる。	・味方をねらってボールを転がし、得点するためには、ボール保持者と味方が連携することが欠かせない。そのため、必要感をもって攻め方について話し合うことになり、ボールころころゲームの課題の解決策について考えたことを友達に伝えることができる。	・クライマックスイベントとして、ボールころころゲーム大会を行うことにより、全員できまりを守ることや勝敗を受け入れることの大切さに触れることになり、誰とでも仲よく学習しようとする態度を育てることができる。
見方・考え方	ボールころころゲームにおける守りをかわす動きやボールを転がす動き、ボールが転がってくるコースに入る動きに着目し、プレーしたりプレーを見て考えたことを伝えたり、目標とする動きから動きのポイントを見いだしたりする。		
今後の学習	1年「ボール投げゲーム」で、ボールを的に向かって投げるといった基本的なボール操作によって攻防する学習へと発展していく。		

指導と評価の計画

目標	みんなで励まし合い、動きのポイントを見付けて、ボールをねらって転がしたり、ボールを操作できる位置に動いてボールを捕ったりしてボールころころゲームを楽しむことができる。			
評価 規準	(①知・技)的や味方をねらってボールを転がしたり、ボールを操作できる位置に動いてボールを捕ったりするボールころころゲームの行い方を知り、その動きができる。 (②思・判・表)的や味方をねらってボールを転がしたり、ボールを操作できる位置に動いてボールを捕ったりする動きのポイントを見付けたり、簡単な攻め方を選んだり、課題の解決のために考えたことを伝えたりしている。 (③主体的態度)規則を守り、勝敗を素直に認めながら、誰とでも仲よくボールころころゲームに進んで取り組もうとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目＜評価方法（観点）＞※太字は「記録に残す評価」
つかむ	1	○試しのボールころころゲーム（段ボールの的に当てて得点）を行い、共通のめあてを立てる。 共通のめあて 転がす・捕る動きのポイントを見付けたり、攻め方を工夫したりして、たくさん得点してボールころころゲームを楽しもう	○ボールころころゲームの中で取り組んでいく動きや学び方の見通しがもてるよう、「ボールころころゲームの楽しさ」「できるようになりたいこと」の視点を提示する。	◇試しのボールころころゲームに取り組んで得た感想を基に、視点に沿った内容を発言している。 ＜発言③＞
追究する	1	○ボールを転がす動きのポイントを見付けて、2対1のゲームを行う。（段ボールの的に当てて得点）	○ボールを転がす動きのポイントに気付けるように目標とする動きと「足の出し方」という視点を提示する。	◇投げる手と反対の足を前に出してボールを転がすという転がす動きのポイントを発言している ＜発言②＞
	1	○守りをかわす動きのポイントを見付けて、2対1のゲームを行う。（段ボールの的に当てて得点）	○守りをかわす動きのポイントに気付けるように、目標とする動きと「2人の間」という視点を提示する。	◇守りをかわして、ボールを転がすことができる。 ＜行動①＞
	1	○転がってくるボールを捕る動きのポイントを見付けて、2対1のゲームを行う。（味方がボールを捕って得点）	○転がってくるボールを捕れる位置に移動できるようにペアで、転がしたボールを捕り合う機会を設定し、繰り返し行う時間を十分に確保する。	◇指先を下向きにして構えて、ボールを捕ることができる。 ＜行動①＞
	1	○守りがいない場所に移動して、ボールを捕る動きポイントを見付けて、2対1のゲームを行う。（味方がボールを捕って得点）（本時）	○守りがいない場所に移動してボールを捕る動きのできばえを自覚できるように、教師が撮影した動画を基に、動きを評価・判断する機会を設定する。	◇ボールを持っていないときに、守りがいない場所に動いている。 ＜行動①＞
	2	○選んだ攻め方で、2対1のゲームを行う。（味方がボールを捕って得点）	○簡単な攻め方を選べるように、複数の攻め方を提示する。	◇簡単な攻め方を選んでいる。 ＜学習プリント②＞
まとめる	1	○ボールころころゲーム大会を行い、互いの頑張りを認め合って学習のまとめをする。	○学習の成果を実感できるように「できるようになった動き」「自分や友達の頑張りの」「ボールころころゲームの面白さ」という振り返りの視点を提示する。	◇自分や友達の頑張りの中で気付いたことを発言している。 ＜発言③＞

本時の学習（５／８時間目）

ね ら い 守りがいない場所に移動するために考えた解決策を基に、繰り返し練習する活動を通して、守りがいない場所に移動してボールを捕ることができる。

評価項目 ボールを持っていないときに、守りがいない場所に動いている。

<行動①>

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点
１ 本時のめあてをつかむ。 ・味方がボールを転がしてくれたけど、自分の前にいる守りに捕られてしまったな。ボールを捕るためにどのように動いたらよいのだろう。（課題意識）	○前時の課題となっていた姿から本時の課題を見いだせるように、前時に撮影したボール保持者と守り、非保持者が一直線に並んで、ボールを転がすコースがない様子の動画を提示する。 ○守りがいない場所に移動する動きについて考え、課題を解決するという見通しをもてるように、本時でできるようにしたいことを問いかける。
めあて：ボールを守りに捕られないようにするにはどうすればよいのだろう	
２ 守りがいない場所に移動して、ボールを捕る動きのポイントを見付ける。 ・味方と守りの位置に注目して動画を観たら、守りから大きく離れていたよ。それに離れた場所で手を大きく振って、ボールを捕っていたよ。 ・守りに捕られないようにするためには、守りから離れて、味方と守りと私が真っ直ぐにならないようにして、ボールを待つと、ボールを捕ることができそうだな。	○守りがいない場所に移動して、ボールを捕る動きのポイントに気付けるように、目標とする動きの動画を視聴する際に「味方と守りの位置」という視点を提示し、ボール保持者と非保持者を直線で結ぶ。 ○見付けた動きのポイントを実際の動きと関連付けられるように、コートにボール保持者と非保持者、守りを配置し、守りがいない場所に移動する動きを例示する。
３ 見付けた動きのポイントを基に、チーム内で２対１のゲームを試行する。 ・守りから離れるようにしてボールを待ってみたけど、守りに捕られてしまったな。動画を観たら、あまり離れていないことが分かったよ。 ・味方と真っ直ぐにならないで、斜めの線になるように広がってというアドバイスをもらったよ。真っ直ぐにならないように、横に大きく開いて斜めになるようにしてみよう。	○守りがいない場所に移動する動きに対する解決策を見いだせるように、教師が撮影した動画を用いて、取り組んだ動きを見付けた動きのポイントに照らして評価するよう促す。 ○ボール非保持者が守りがいない場所に移動する動きについての解決策を得られるように、チーム内で、観察する役割を設定し、味方と守りの位置について気付いたことを伝えるよう促す。
４ ２対１のメインゲームを行う。 ・ボールを持っている味方と守りと私が真っ直ぐになるのではなくて、斜めになるように離れることが大切だな。これを生かしたら、守りに捕られないでボールを捕ることができたよ。（課題を解決した意識）	○守りがいない場所に移動していることを自覚できるように、守りがいない場所に移動してボールを捕っていたり、守りがいない場所に移動しようとしていたりしている子どもを称賛する。
５ 本時の学習の振り返りをする。 ・友達の「斜めの線になるように広がる」というアドバイスのおかげで、守りがいない場所について、ボールを捕ることができたよ。	○守りがいない場所に移動する動きの高まりを実感できるように、本時教師が撮影した、守りがいない場所に移動して、ボールを捕っている動画を提示し、できるようになったことをチームで伝え合うように促す。